

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 ジュニアサンゴレンジャー事業実施要綱

(目的)

第1条 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会（以下「協議会」という。）は、「こどもたちのサンゴやサンゴ礁保全に関する意識の向上と環境学習の支援を行うとともに、指導者・教育活動団体のサンゴやサンゴ礁保全活動に関するスキルアップをめざし、沖縄県のサンゴ礁が未永く保全されるための活動を拡大すること」を目標として、サンゴ礁保全活動等を行う団体への助成事業を実施する。

(助成対象活動団体)

第2条 助成対象となる活動は、次の条件をすべて満たすものとする。

- (1) 幼児、小学生、中学生、高校生のいずれかが参加する活動団体。
- (2) 活動の主体は、保育園・幼稚園・各種学校におけるクラブや同好会、NPO、地域自治会、子ども会、PTA等の教育・保全・研究活動団体。
- (3) 活動団体には必ず成人の活動責任者を含む。その責任者は活動団体メンバーが所属する保育園、幼稚園、各種学校の教職員またはNPO、地域自治会、子ども会、PTA等に所属するものを原則とする。

※活動責任者は活動の引率、安全管理、事務連絡や助成金の授受を担当

(応募資格)

第3条 助成対象団体は、次の条件をすべて満たす団体でなければならない。

- (1) 協議会の趣旨に賛同し、会員の資格を有していること。
- (2) 法令等に違反していないこと。
- (3) 予算、決算、事業報告を適正に行えること。
- (4) 宗教活動や政治活動を目的としていないこと。
- (5) 特定の公職者（候補者を含む）または政党を推薦、支持、反対することを目的としていないこと。
- (6) 暴力団ではないとともに、暴力団又は暴力団員の統制の下にある団体ではないこと。

(助成事業の手続き等)

第4条 助成を希望するものは、助成申請書（第1号様式）に関係書類を添付の上、協議会会長（以下「会長」という）に提出しなければならない。

2 手続き等については、別に定める要領等に従うものとする。

(支援条件)

第5条 助成対象者は、助成金を受けるにあたり、次の内容を実施するものとする。

- (1) 支援する活動は、サンゴやサンゴ礁の保全・普及に関する活動や調査・研究活動とする。
- (2) 助成対象活動の際及び活動の成果を公表する際には、協議会からの助成を受けた活動である旨の普及広報に努めること。
- (3) 助成金で作成した活動の成果は活動団体に帰属する。
- (4) 実績報告書とは別に、以下の1つ以上の方法で成果発表を行うこと。詳細は別に定める実施要領等を参照のこと。
 - ア. ポスターの提出による発表
 - イ. サンゴ礁をテーマとした絵画、立体作品などの提出
 - ウ. 協議会主催のイベントでの口頭発表
 - ・イベントの時期、発表の形式（ポスター発表またはスライド発表など）はおって通知する。

(助成事業の窓口)

第6条 協議会は、助成事業の事務を円滑に行うために助成事業業務の全部または一部を、外部

の第三者に委託することができるものとし、その実務は次のとおりとする。

- (1) 協議会名義の口座（助成事業分）の通帳等の管理
- (2) 本助成事業の出納管理等の会計事務
- (3) 本助成事業にかかる外部からの問い合わせへの対応
- (4) 本助成事業業務に関する申請受付の開催等に係る事務、実績報告等の取りまとめ
- (5) その他、本助成事業の実施に関する業務

(審査会)

第7条 協議会は、助成対象活動の公平な決定を行うために、ジュニアサンゴレンジャー事業審査会（以下「審査会」）を設置することとし、その構成員は、理事会で承認するものとする。

- 2 審査会の構成は、審査会長及び審査員とし、審査会長は理事の中から会長が任命するものとする。
- 3 審査会は、第4条により提出された申請書等について審査（必要に応じて申請者に対しヒアリング）を行い、助成対象活動として相応しいものを選定する。
- 4 審査会で技術的な判断が困難な場合は、外部の有識者にヒアリングできるものとする。その際には、申請内容の取り扱いに十分注意する。

(助成対象の決定等)

第8条 理事会は、審査会からの審査結果を承認し、その結果を審査結果通知書（第2号様式）により、申請者に通知するものとする。

- 2 前項による審査結果通知を受けた後、この助成金の申請を取り下げようとするときには、この通知を受けた日から起算して20日以内に、その旨を記載した書面を提出しなければならない。
- 3 審査結果通知書により通知を受けた助成対象団体は、審査結果通知書にある採択金額を請求書（第9号様式）により申請できる。

(助成金の交付)

第9条 助成金の交付は、別に定める要領等に従うものとする。

(活動費等の変更)

第10条 助成対象活動について変更が生じた場合は、速やかに会長に活動変更承認申請書（第4号様式）を提出し、その承認を受けなければならない。但し、会長が軽微な変更であると判断した場合は、この手続きを省略することができる。

- 2 助成対象活動の活動費総額等の変更を承認する場合は、その旨を、活動変更承認通知書（第5号様式）により申請者に通知するものとする。
- 3 詳細については、別に定める要領等に従うものとする。

(助成対象活動の実施確認)

第11条 協議会は、必要に応じて、助成対象活動が申請書の記載内容に基づき適正に実施されているか否か、ヒアリングや現地調査等により確認する。

(実績報告)

第12条 第9条の規定に基づき助成金の交付を受けた者は、活動完了後、活動報告書（第6号様式）に関係書類を添付のうえ、提出しなくてはならない。

- 2 詳細については、別に定める要領等に従うものとする。

(助成金額の確定)

第13条 活動報告書の書類審査及び必要に応じて行うヒアリングや現地調査等により、確定した助成金額を助成金額確定通知書（第7号様式）により助成対象者に通知する。

- 2 前項において、報告に係る助成対象活動の結果が活動費の減額等により、既に交付した

助成金の一部返還等が必要と認められるときは、助成金一部返還請求書（第8号様式）により、助成金の返還を命じることができる。

3 詳細については、別に定める要領等に従うものとする。

（助成の取り消し等）

第14条 助成の取り消し等については、別に定める要領等に従うものとする。

（帳簿等の整備）

第15条 助成金の交付を受けた者は、助成金に係る経理についてその収支の事実を明確にした証拠書類を整備し、かつ、これらの書類を助成活動が完了した日に属する会計年度の終了後5年間保存しなければならない。

（委任）

第16条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は会長が定める。

附 則

この要綱は、令和6年4月29日から施行する。